

登録コード	J5010200	開講年度	2026			
授業科目	マクロ経済学Ⅰ				担当教員	青木 周平
英文授業名	Introductory Macroeconomics				副担当	
単位数	4	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・1時限 木曜・2時限	対象学年
講義室	経法第2講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】
	経法20加					
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。				⇔	経済学が積み上げてきた知識として、マクロ経済学(の中で特に短期の景気循環論)に基づく基礎レベルの論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。
	経法23加(2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済, 経法20加・応用経済					
	【2020年度以降カリキュラム対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、金融、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。				⇔	専門領域での基礎知識として、マクロ経済学(の中で特に短期の景気循環論)に基づく基礎レベルの論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。
	経法23加(2026改)・総合法律, 経法23加・総合法律					
	環境問題や、企業や行政の組織内において、日々生起する諸問題について、理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち、総合的に解決していくことのできる能力を身につける。				⇔	経済学分野の思考方法として、マクロ経済学(の中で特に短期の景気循環論)に基づく基礎レベルの論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	マクロ経済学は、一国の経済全体の景気変動や経済成長の要因を分析する学問である。この講義では、短期の景気変動に関する理論を中心にマクロ経済学の入門的内容を講義していく。最初にGDPなどの基本的なマクロ経済指標が、どのような概念であるのかを学習する。次に、現実のマクロ経済に関するものの見方・考え方として、ケインジアンと新古典派という2つの見解があるが、これらがどのようなものかを経済モデルに基づいて理解していく。最初は簡単なモデルを分析することから始めて、徐々に現実経済の様々な要素をモデルに取り入れて拡張していく。この作業を通じて、現実のマクロ経済をより深く理解できるようになることを目指す。					
(5)授業計画	第1回 マクロ経済学とは何か？ 第2回 国民経済計算－GDP、実質GDPと名目GDP 第3回 国民経済計算－三面等価 第4回 国民経済計算－GNIなどのGDPに関係した諸概念、フローとストック 第5回 国民経済計算－価格指数 第6回 マクロ経済学で使う数学－対数 第7回 マクロ経済学の基本的な考え方 第8回 45度線モデル－財市場の均衡、国民所得の決定 第9回 45度線モデル－乗数効果、新古典派による45度線モデルの解釈 第10回 産業連関表と波及効果分析 第11回 IS-LMモデル－名目金利と実質金利、投資関数 第12回 IS-LMモデル－IS曲線の分析 第13回 IS-LMモデル－貨幣の役割、貨幣の定義 第14回 IS-LMモデル－貨幣数量説と流動性選好理論、LM曲線の分析 第15回 IS-LMモデル－IS-LMモデルの分析、新古典派によるIS-LMモデルの解釈 第16回 AD-ASモデル－AD曲線の導出と分析 第17回 AD-ASモデル－AS曲線の導出と分析 第18回 AD-ASモデル－AD-ASモデルの短期分析 第19回 AD-ASモデル－AD-ASモデルの中・長期分析 第20回 フィリップス曲線と期待の役割 第21回 開放経済のマクロモデル－開放経済下のISバランス式、名目為替レートと実質為替レート 第22回 開放経済のマクロモデル－購買力平価説 第23回 開放経済のマクロモデル－金利平価関係 第24回 開放経済のマクロモデル－マンデル・フレミング・モデルの設定 第25回 AD-ASモデルなどの中期モデルの練習問題に関する解説 第26回 開放経済のマクロモデル－変動相場制の分析 第27回 開放経済のマクロモデル－固定相場制の分析 第28回 時事問題をマクロモデルを使って理解する 1. 第28回 時事問題をマクロモデルを使って理解する 2. 第30回 本講義のまとめと授業アンケートの実施 期末試験					
(6)成績評価の方法	確認テスト(40%)＋期末試験(60%) 確認テストは、学期中に基本的に毎週eALPS上で行う予定である。					
(7)成績評価の基準	授業や練習問題で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、難しい応用問題が解ければ「卓越している」。					

(8)事前事後学習の内容	毎週eALPS上で確認テストを実施する。問題を問いて理解できているか確認し、解けなかった箇所は復習すること。
(9)履修上の注意	単位取得のためには、授業に出席して講義内容を理解することが必要である。
(10)質問,相談への対応	授業中の質問を歓迎する。 また、この授業では、チューター・セッションの時間を設けている。これは、本授業を履修した学生もしくは大学院生によるチューターが、受講者の質問等に答える制度である。昼休みの時間に実施する予定である。受講者は、チューター・セッションを積極的に利用してほしい。 個別の質問がある場合は、メール(shuheiaoki@shinshu-u.ac.jp)で日時(火曜2限のオフィス・アワー等の時間)を相談の上、研究室(経法学部研究棟606室)面談することも可能である。さらに、メールでの質問も受け付ける。
【教科書】	特に指定しない。講義資料を配布し、それに沿って講義を進める。
【参考書】	授業において指示する。